

都市地域デザイン学研究室

4 講座諸先輩の皆様、いかがお過ごしでしょうか。2026 年度研究室の体制は、瀬戸口剛教授（理事・副学長）、渡部典大准教授、門脇千恵事務員、学術研究員 2 名（鈴木等、加持亮輔）、博士課程 5 名（カン・チィ、石黒卓、杉本匠、生沼貴史、東海林孝男）、修士課程 5 名（室伏真幸、大庭妙子、猪俣咲月、大友堅心、香川菜緒）、学部 4 年生 5 名（木村涼太、岡本向日葵、奥村涼、戸井遥、宮原隆輔）の総勢 19 名で、日々研究活動に取り組んでいます。新たな体制でも、研究室メンバー一同より一層気を引き締めて研究室運営を担っていきます。現在当研究室では札幌市及び北海道の地方都市に根差した複数の研究を進めています。積雪寒冷都市の都市デザイン研究では、札幌市都心部の新幹線駅に合わせた高層建築や都心のオープンスペースを対象に、雪 CFD を用いた風雪に強い建築・都市デザインの開発や AI を用いたアクティビティ分析を行っています。人口減少都市の防災効果を高めるロバストコンパクトシティ研究では、函館市や釧路市などを対象として将来人口予測と津波避難シミュレーションを組み合わせた安全なコンパクトシティの計画手法を研究しているほか、『逃げ地図』を用いたワークショップによる災害に強いまちづくりにも尽力しています。夕張市における集約型コンパクトシティの形成に向けた計画研究では、財政負担の軽減を目的とした都市機能の集約に向けて、市民との合意形成を図りながら行政の意図を反映できる都市計画の手法を模索しています。下川町における空き家活用による地方都市再生の研究では、現地での空き家調査の結果を整理し、空き家活用を推進する手法を検討しています。研究室の活動は HP にて紹介しておりますので、ぜひご覧ください。また札幌にお越しの市はぜひ研究室にお立ち寄りください。研究室一同、心よりお待ちしております。

研究室 HP アドレス: <https://www.eng.hokudai.ac.jp/labo/ur-design/>